

登場作品	機動戦士ガンダムUC
形式番号	NZ-666
所属	ネオ・ジオン(袖付き)
主なパイロット	マリーダ・クルス
主な装備	胸部メガ粒子砲×4、バインダー部メガ粒子砲×2(×4)、ビームサーベル×2、ファンネル×6(×4)、マシンキャノン×2
その他の装備	隠し腕
オプション装備	ビームガトリングガン×2
特殊装備	サイコフレーム

## 【設定】

ネオ・ジオン残党軍「袖付き」の擁するニュータイプ専用MS。第一次ネオ・ジオン抗争にて猛威を奮ったNZ-000[クイン・マンサ](#)を元に設計した機体。通称『四枚羽根』。

武装・バーニア・ファンネルコンテナといった複数の機能を備えるバインダーの増設もさることながら、最大の特徴はコクピット周辺部におけるサイコフレームの採用である。

これによりオリジナルの火力と性能を維持しつつ、39.2mから22.3mにまでダウンサイジングする事に成功している。

バインダー自体がMS1機分に相当するサイズという事もあり、一般的なMSと比較すると少々大振りに思える機体ではあるが、その機動性は凄まじい物がある。

その代わりクイン・マンサ同様パイロットにかかる負担も大きいようで、OVA版冒頭のスターク・ジェガン戦ではバズーカ回避のための急停止の際、すさまじいGがかかっているような描写がある。

加えてビームサーベルを仕込んだ隠し腕(サイドアーム)も内蔵しており、後方からの接近に対しても死角がない。

しかし、「袖付き」が所有するサイコフレームは備蓄が限られており、精製する設備も無い。そのため本機は追加生産どころか破損部位の完全修復もままならないワン・アンド・オンリーの機体でもある。

オリジナルと同じく水準以上の強化人間でなければ扱えない代物であり、事実上マリーダ・クルスの専用機となっている。

## 【原作内での活躍】

物語冒頭ではインダストリアル7へ向かう途中に遭遇した Rond・ベル隊との戦闘で ガランシェール防衛のため出撃、通常型ジェガン2機とスターク・ジェガン1機相手に戦闘を行った。通常型2機をファンネルであっさり撃破、スターク・ジェガンはパイロットの技術もあってファンネルを突破、そのまま接近され格闘戦となったが、最後は胴体を真っ二つに切り裂いて撃破した。

工業コロニー「インダストリアル7」内で起きた戦闘にて、単機で Rond・ベルMS中隊を壊滅寸前に追い込むという圧倒的な力量を見せつける。だが、その途中で バナージ・リンクスが乗り込んだユニコーンガンダムと遭遇、コロニーの外に押し出されてしまう。その後ファンネルでユニコーンに攻撃をしかけるがそれが NT-D を発動させるきっかけとなり、その絶大な能力の前に為す術なく、一時撤退。

暗礁宙域におけるユニコーンとシナンジュの交戦ではフロントルの指示に従い、デブリに潜伏していた。隙を見せたユニコーンの背後から接近して隠し腕で拘束、すかさず腹部に強烈なボディブローを叩き込んでバナージを気絶させ、鹵獲に成功する。

その後、ユニコーンでパラオを脱出しようとしたバナージの前にクシャトリヤが立ちちはだかる。説得を聞き入れようとしないうマリーダに激昂したバナージは NT-D システムに呑まれ、彼女に襲い掛かった。NT-D発動のために意図的な孤立状態を作る、というフロントルの画策によって応援も出されないまま、ただ一方的になぶられていくクシャトリヤ。とどめを刺されそうになったその時、両機の間で精神交感ともいべき現象が発生。その中でバナージとマリーダは互いの過去を分かり合う。永遠とも思える一瞬が過ぎ、意識を取り戻したバナージは間一髪で攻撃を中断。満身創痍のクシャトリヤはマリーダと共に、ネェル・アーガマに収容されるのだった。

## 【パイロット説明】

### マリーダ・クルス(本名：マリィ・ジンネマン)

「袖付き」ガランシェール隊に所属する女性パイロット。18歳。階級は中尉。

遺伝子レベルの先天的調整を受けた強化人間。鋭い洞察力と強靭な肉体(OVA版でバナージを追いかけるシーンでその身体能力を如何なく発揮...結局逃がしたが...)を備えており、精神状態も安定している。ただし人の死を感じ取った際には、やや過敏に反応しがちな傾向がある。マスターとみなす養父スベロア・ジンネマン大尉の命令に忠実に従い、与えられた任務を遂行する事を信条と

している。物静かでクールな雰囲気をもっているが、非番の時は同隊のギルボア・サントー一家の下に逗留しており、近所の子供達からも慕われているようだ。

第一次ネオ・ジオン抗争当時、10歳の彼女は「ブルトゥエルブ」というコードネームで呼ばれており、グレミー・トト率いるクローン・ニュータイプ部隊に所属していた。グレミーの死後、キャラ・スーンとの戦闘で消息不明となっていたが、数年後にガラランシェール隊によって保護される。彼女はジンネマンから、「マリーダ・クルス」という新しい名前を与えられ、ネオ・ジオンに正規の軍人として復帰する事となる。

パラオ攻略戦でユニコーンとの戦闘で機体と共に、ネエル・アーガマに収容されるが・・・

その後は、[こちら](#)を参照。

## 【原作名台詞】

- 了解、マスター。
- お前だけは……墜とす！(原作第2巻)
- 正しい戦争なんてない。でも正しさが人を救うとは限らない。(原作第4巻、OVA版Episode2)
  - 戦争の現実を的確に突いている言葉  
NEXTPLUSでは戦闘開始時に「貴様は正しいのか？」と聞いてくる五飛に対してこの言葉で答えた。
- ロマンチストだな。人や世界を信じていなければ、そんな言葉は出てこない。誰が言ったか知らないが、優しい人だったんだろう。(原作第4巻、OVA版Episode2)
- でも…… “それでも” って言えるお前は、いいと思うよ……。(原作第4巻)

## 【ゲーム内での活躍】

### NEXT

PSP版「ガンダムVSガンダム NEXT PLUS」の隠し機体として参戦した、コスト3000のファンネル機。

[クィン・マンサ](#)の後継機なだけあって、その姿は正に「縮小版クィン・マンサ」。

それ故機体サイズが異常にでかく、プレイヤー機としてはぶっちぎりで最大。

具体的に言うと、高さはガンダムなどの普通サイズのMSの約2倍、横幅は2倍すら超えるという驚きのサイズ。

お陰で本来全高が本機を超えているはずの [ガンダム](#)や[サザビー](#)ですら小さく見えてしまうというとんでもない事になっている。

メインは単発ダウンの太ビーム。射角外の場合バインダーから2発同時発射する為死角が無い。

アシストは両側に味方を1機ずつ呼んでのMGで、性能と使い勝手は抜群。

また火力も高く、(カット耐性と引き換えだが)ND無し270ダメージコンボも持っている。

更にファンネル持ちにも係わらず耐久が何と700もあり、後格で全方位シールドまで可能。

だが機体サイズと同じく喰らい判定も全機体中最大で、BD持続は3000最低レベル(速度はそこそこある)、更にファンネル操作中は足が止まりっ放しと癖もかなり強い。

上記の様に攻撃・防御特化の回避は劣悪という性能な為、射撃の当て易さと全体的な火力の高さでダメージレースに競り勝つのが勝利の鍵となる。

ちなみに[ユニコーン](#)のバナーと共にOVA発売に先駆けてマリーダのボイスがNEXT PLUSで初お披露目となっている。

### EXVS.

OVA2巻上映目前という実においしいタイミングでの正規参戦。

コストは少し下がって2500、なんの因果かハマーンの[キュベレイ](#)と同コスト。

NEXT PLUSよりかは少し縮んだが、それでも圧倒的な巨躯を誇る。今作では[サザビー](#)がスリムになったこともあり、むしろ相対的により巨大になっている。小さい物もラゴウやヒルドルプのような特殊な機体が増え、更に際立つようになった。

サブ射撃がレバーを入れた方向にビームの壁を作り、触れた相手をスタンさせるなど若干特殊な物もあるが、基本は前作と同じく支援機。

ファンネルを主体に射撃のバリエーションは相変わらず豊かなので、「射撃戦を制してダメージレースに勝つ」という方向性は変わらない。

### EXVS.FB

コストは更に降格して2000に。

## 【勝利・敗北ポーズ】(NEXT)

### 勝利ポーズ

- ・ニュートラルポーズと同じ
- ・それぞれの羽根から隠し腕を展開する
- ・やや右向きのニュートラルポーズで右手にビームサーベルを持っている。

### 敗北ポーズ

バインダーで機体を覆い、片膝をついている。

## 【勝利・敗北ポーズ】(EXVS.)

### 勝利ポーズ

- ・実に漢らしい仁王立ち

### 敗北ポーズ

- ・バインダーを閉じて縮こまる。前作と同じポーズ。